

小さな怪我から学ぶ、危険回避力

高い所からジャンプして足がキーン！！と痛くなり、もうここからのジャンプはやめよう。と思った事はありませんか？

痛みを知るという事は、限度や恐ろしさを知るという事です。

今の子どもの世界には、一部の大人の考えから、小さな危険までが排除される事が増えてきています。

ほんの小さな危険でも『危ないからやめて』と止めてしまう事が癖になっていませんか？

子どもがしようとしている事が本当に危ないかどうかを自分で見極めるワンクッションが抜けているのではないのでしょうか。

小さなキズは子どもの学びととらえてみて下さい。

人との関わり方やものを正しく、安全に扱う知恵がつく素晴らしい経験です。

そして、小さなキズを積み重ねるほど、自分の身を守る力が高まり、結果的に大きな怪我や事故を防ぐ事に繋がります。

大人は何でも先回りしすぎないように、一步下がって見守るくらいの気持ちや距離感があっても良いのではないのでしょうか。

ストップをかけるタイミングの見極めは、その子どもをよく観察する事です。

子どもが何をしようとしているのか。

運動能力や性格を考えてどこまで自由にさせるべきかを考えます。それを繰り返すことで、親としての判断力が高まっていきます。

ちょっとした段差からジャンプする。

揺れたままのブランコから飛び降りてみる。お家のテーブルの下に潜り込んでみる。

なんでもいいのです。

ちょっとした『出来るかな？どうかな？』というスリルを味わわせてあげて下さい。

人は守られすぎると弱くなってしまいます。もちろん安全に遊ぶための配慮や注意は必要です。

大きい意味での安全な環境の準備は必要ですが、遊びの中での危険を一切排除してしまっは子ども達の為にはなりません。

小さな危険の経験があるからこそ、学び、大きな危険の回避出来る子どもになれる。

まずは大人が意識を変えて子ども達を見守ってあげて下さいね。